



# JAMS NEWS

日本経営システム学会

<http://www.jams-web.jp/>

## 日本経営システム学会 第59回全国研究発表大会のご案内

会員の皆様には、時下益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。さて、日本経営システム学会第59回全国研究発表大会が2017年10月28日(土)～30日(月)に星城大学(愛知県東海市)にて開催されます。同時開催される国際会議ICBI2017とは相互聴講可能で、懇親会は合同になります。30日(月)には、名古屋市の栄地区から見学バスツアー(トヨタ、八丁味噌、名古屋城、明治村等、3コース)が用意されています。発表会場は、名古屋駅より名古屋鉄道常滑・河和線特急電車で25分程です。多くの皆様のご参加を心よりお待ちしております。

### 記

開催日: 2017年10月28日(土)～30日(月) ※JAMS ICBI 2017と同時開催(相互聴講可能)  
 開催場所: 星城大学 〒476-8588 愛知県東海市富貴ノ台2丁目172番地 <http://www.seijoh-u.ac.jp/>  
 連絡先: 実行委員長 野村 淳一(星城大学) [nomura@seijoh-u.ac.jp](mailto:nomura@seijoh-u.ac.jp)

主催: 日本経営システム学会

協賛学会: 経営情報学会、社会情報学会、情報システム学会、電子情報通信学会、日本オペレーションズ・リサーチ学会、日本経営工学会、日本情報経営学会、日本心理学会、日本知能情報ファジィ学会、日本人間工学会、日本品質管理学会

統一論題: 「第4次産業革命における経営システムの役割」

基調講演: 「ドコモのIoT最新動向紹介」

(株)NTTドコモ 法人ビジネス本部 IoTビジネス部 IoT営業推進担当部長 仲田 正一氏  
 チュートリアルセッション: 「ERPを利用した大学教育」(10月29日14:40～15:40開催)岡崎一浩氏  
 (R+ERP経営研究部会)。参加希望者は無線LAN対応のパソコンをご持参ください。先着20名です。詳しくは学会Webをご参照ください。

参加費: 会員5,000円、学生会員3,000円、協賛学会員・同学生会員はそれぞれ会員・学生会員と同額、非会員6,000円、非会員学生4,000円、(当日支払は各1,000円高)

懇親会費: 会員5,000円、学生会員3,000円、協賛学会員5,000円、非会員6,000円(当日支払各1,000円高)

バスツアー: 国際会議ICBI2017のバスツアーへの参加を募集いたします。バスツアー(10月30日、月曜日)。参加費は、会員、非会員、学生の区別なく、5,000円(入場料、昼食込)。コース別に定員がありますので、下記のページを参照の上、申込フォームより第1～第3の希望順位をつけてコースA、B、Cを指定し、送信してください。申込締切10月13日(金)。先着順とさせていただきます。バスツアー参加費は、当日、大会受付でお支払いください。

<http://www.jams-web.jp/information/ICBI2017bustour.html>

国際会議ICBI2017Proceedings(USB)代金: 会員、非会員、学生の区別なく、3,000円。購入ご希望の方は、当日、受付にお申し出下さい。

昼食: 大学内の食堂・コンビニは28日、29日共に閉店です。大学から徒歩4分ほどのところにコンビニがあり、徒歩10分圏内にいくつかの飲食店があります。なお、29日のお弁当(1,000円)の事前予約を承ります。お弁当をご希望の方は、参加費と一緒に振込みください。

懇親会会場: 4号館2階食堂

宿 泊：会場には名鉄名古屋駅から約 30 分で到着しますので、多数のホテルがある名古屋市内の名古屋駅や金山駅周辺、栄エリアのホテルをご利用されると便利です。また、会場近くの太田川駅・名和駅から徒歩 5 分圏内にも数軒のホテルがあります。※近年、外国人観光客増加により名古屋市内・東海市内ともホテルの予約が難しくなっております。各自で早めの手配をお願い致します。

参加申込：本 JAMS NEWS に同封の振込用紙または HP の振込み方法を参考にして 10 月 20 日（金）までに上記金額をお振込みください。期限後に振込みされた方は、振込控えまたはコピーをお持ち下さい。なお、国際会議に参加される方は、第 59 回全国研究大会の参加費は不要です。

### ■会場設備について

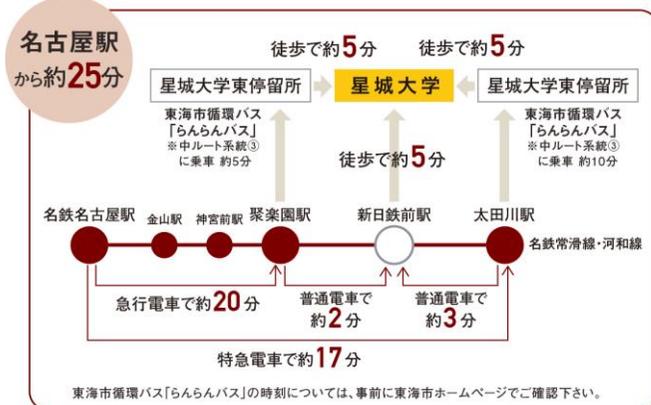
全ての発表会場に PC(Windows, MS-Office)とプロジェクタが設置されていますので、原則として会場の設備をご利用下さい。データは USB メモリに入れてお持ち下さい。特殊なソフトをご使用の場合は、ノート PC をお持ち込みも可能ですが、コネクタ接続など準備に時間がかかりますので、ご注意ください。

### ■大会会場へのアクセス

名鉄常滑・河和線「新日鉄前駅」下車、徒歩 5 分 交通アクセス <http://www.seijoh-u.ac.jp/access/>

#### 新日鉄前駅への経路

- ・名鉄名古屋－（名鉄 常滑・河和線 特急）－太田川－（普通電車に乗換・一駅戻る）－新日鉄前
  - ・名鉄名古屋－（名鉄 常滑・河和線 急行）－聚楽園（しゅうらくえん）－（普通電車に乗換・一駅進む）－新日鉄前
  - ・中部国際空港－（名鉄 空港線・常滑線 特急）－太田川－（普通電車に乗換・一駅進む）－新日鉄前
- ※新日鉄前駅より大学まで、150 段超の階段があります。キャリーバッグをお持ちの方など、階段の利用が困難な場合は、隣駅の「太田川駅」からタクシーを利用されることをお勧めします（タクシーで会場まで約 5 分、千円強）。



### ■学生研究発表優秀賞について

当学会では、学生セッションの研究発表を審査して優秀な発表には「学生研究発表優秀賞」を授与しています。学生であれば、正会員・学生会員を問わず、学生セッションの研究発表は審査の対象となります。ただし、下記の点にご留意下さい（もし、ご不明な点がございましたら、学会事務局にお問い合わせ下さい）。

- ・学生セッションの発表は、正会員（一般的には指導教員）との連名とし、ファースト・オーサーは学生とします。
- ・学生セッションでの単独発表は、正会員の学生に限ります。
- ・学生研究発表優秀賞の受賞対象者は、単独発表、連名発表のファースト・オーサーの学生のみとします。
- ・学生セッションの発表原稿は、会員の種別を問わず 2 頁とします。

### ■学会発表に関する原則について

当学会では、研究発表大会をスムーズに運営するために、口頭発表に関して「学会発表に関する原則」（学会ホームページ <http://www.jams-web.jp/information/prerule.html>）に従って運営しています。口頭発表を申し込まれる前にご確認ください。なお、この原則は、大会委員会および大会実行委員会により運用されます。不明な点がございましたら、学会事務局へお問い合わせください。



【10月29日（日）午前】 受付開始 8:30～（受付：2号館1階ロビー）

時 間	E会場 (一般：本館2階203教室) 共有スペースをもち浮城立セルの構成と運営に関する研究 V	F会場 (一般：本館2階1204教室) 東通り市における観光施設のユニバーサル・デザイン研究会	G会場 (一般：本館2階1205教室) 経産省品質科学研究所 能力開発型並行実注を考慮した在庫削減と品別別負荷平準化の多段階多品目調度モデル	時 間	H会場 (学生：本館3階1303教室) ネットワー分析による日本の自動車産業におけるサブライヤー構造の変化に関する一考察 - ハイブリット車用部品品の取引を題材に -	I会場 (学生：本館3階1304教室) インターネット通信版のキャストマーレデビューによる顧客購買意欲への影響
9:00～9:30	木村 有希 近畿大学 松置 運夫 近畿大学 大谷 葉	清井 達雄 * 中央学院大学	栗原 剛 川中 孝章 山下 洋史	9:00～9:20	* 朝日大学 * 朝日大学 * 朝日大学 * 朝日大学 * 朝日大学	* 朝日大学 * 朝日大学 * 朝日大学 * 朝日大学 * 朝日大学
9:30～10:00	植原正次 * 大阪工業大学	原 洋平 小野 浩之 三代川由緒子 保崎・介蔵・ビジネス 名古屋専門学校	山下 洋史 蔵本 薫	9:20～9:40	日本の自動車産業におけるサブライヤー構造の変化に関する一考察 - エンジン部品 の納入マトリックスデータを中心に -	属性情報の追加による選択の楽化に関する研究 * 東海大学 * 東海大学
10:00～10:10				9:40～10:00	日本の自動車工学部・工学部・生産工学部に 関する学際的事業と中心的研究者の特定	ワークライフバランスの可視化 に関する研究 * 東海大学 * 東海大学 * 東海大学
10:10～10:40	電子機器製造業の生産地決定に関する研究 - 中国委託生産の事例分析 -	山形大学 * 山形大学		10:10～10:30	中国観光市場拡大に向けたビジネスモデルの研究	日本の経済学関連研究の中心的研究者 の特定と組織運営に関する一考察 - 共著関係 の中心性に着目したネットワーク分析 -
10:40～11:10	工業先進地域のものづくり立地戦略に関する新たなフレームワークの提案 (第2報) - 単体事業の定性分析 -	原 洋平 * 千葉工業大学		10:30～10:50	付加価値創造プロセスを運行できるIoT人材タイプの定義	日本に企業間競争分野における中心的研究者の 特定と研究分野に関する一考察
11:10～11:20	久野大 * 久野大	奥井 秀樹		10:50～11:10	日本のソフトウェア開発の分業構造 - 上流 工程と下流工程間の問題 -	論文共著情報を用いたイノベーション経 路の可視化に関する一考察 - 日本の世界大学 ランキング上位校を題材に -
11:20～11:50	福岡市医師会加齢研究の意義と状況要因 の重要性	山田 洋史 宇佐美 博史 成瀬 健一 小田 哲久	経産省品質科学研究所 生産管理システムにおけるサブライヤーへの 発注金額安定化処理に関する研究	11:20～11:40	病院組織における診療録技術の取組 に関する研究 (その2)	経営方針決定要因のモデル化に関する研究
				11:40～12:00	精神科におけるSS診療報酬の展開	コンドミニウム業界における小売業 からの展開に関する研究



---

## JAMS ICBI 2017 国際大会開催のご案内

---

ハワイで3年に1度の開催が恒例となっておりました国際大会 ICBI(International Conference for Business and Information)を、今年度は愛知県で、ICBI2017として開催します。同時開催の第59回全国研究発表大会(国内大会)とは相互聴講可能となっております。また、国際大会の参加費を支出された方は、国内大会の参加費は免除になります。多数ご参加ください。

### 記

開催日：2017年10月28日～30日

開催場所：星城大学(愛知県東海市富貴ノ台二丁目172番地)

※JAMS第59回全国研究発表大会と同時開催、その講演論文集もお渡しします。

主催：日本経営システム学会

協賛：経営情報学会、社会情報学会、情報システム学会、電子情報通信学会、日本オペレーションズ・リサーチ学会、日本経営工学会、日本情報経営学会、日本心理学会、日本知能情報ファジィ学会、日本人間工学会、日本品質管理学会

会議テーマ：The Role of Management Systems for the Evolution of Industry 4.0

基調講演：IoT・Internet of Things or Internet of Threats? : Implication of cybersecurity management in the modern connected world

青山友美氏(名古屋工業大学 社会工学専攻経営システム分野)

スケジュール：10月28日(土)受付、懇親会(第59回全国研究発表大会と合同)

10月29日(日)基調講演、研究発表、名古屋へ貸し切りバスで移動して夕食会(昼は弁当あり、夕食会場は名古屋ガーデンパレス)

10月30日(月)バスツアー(名古屋市栄から出発、昼食つき)

バスツアー：見学バスは、30日の朝、名古屋市栄地区から出発の予定です。

コースA：トヨタ自動車工場、トヨタ会館ミュージアム、名古屋城

コースB：カクキュー八丁味噌工場、トヨタ会館ミュージアム、名古屋城

コースC：博物館明治村

詳しくは、<http://www.jams-web.jp/information/icbi2017/schedule.html>

宿泊：星城大学付近には適当なホテルがありません。また、29日の夕食会は栄地区の名古屋ガーデンパレスで、30日のバスも栄地区から出発ですので、なるべく名古屋市内にご宿泊ください。名古屋ガーデンパレス(私学共済)、アイリス愛知(地方職員共済)、KKRホテル名古屋は、栄地区かその隣接で、とても便利です。少し離れますが、公立学校共済(私学共済と相乗り)のルブラ王山、ホテルメルパルク名古屋などの公的旅館も便利です。他にも、一般のホテルが多数ありますので、各自でご予約ください。

予稿集：PDF文書として、大会当日にUSBメモリーで参加者に配布します。

参加登録締切：2017年10月13日(金)。<http://www.jams-web.jp/information/icbi2017/registration.html>

参加登録は以下のページからお願いします。(受付メールが即時送信されます)

<http://www.jams-web.jp/wordpress/icbi2017-registration-form/>

大会運営委員長：小田哲久(本学会前会長、愛知工業大学)

大会実行委員長：柳田義継(横浜商科大学)

実行委員：佐藤修(東京経済大学)、佐々木桐子(新潟国際情報大学)、寺本佳苗(就実大学)、永松陽明(横浜市立大学)、立川大和(リュミスリヒトデザイン)、湊宣明(立命館大学)、今野勤(神戸学院大学)、山田啓一(中村学園大学)、野村淳一(星城大学)

問い合わせ先：jams.icbi2017@gmail.com ※詳細は決定次第学会Webサイトにてお知らせします。

JAMS ICBI 2017 in Nagoya 公式ページ <http://www.jams-web.jp/information/icbi2017/>

---

## 第 58 回全国研究発表大会の報告

---

大会実行委員長 若尾 良男

日本経営システム学会の第 58 回全国研究発表大会が、2016 年 5 月 27 日（土）、28 日（日）の両日に、統一論題「IoT と経営システム」のもとに、東京経済大学 国分寺キャンパスで開催されました。

基調講演は、「IoT、AI、ビッグデータに関する経済産業省の取組について」と題して、経済産業省商務情報政策局情報経済課長佐野一郎氏にご講演をいただきました。大会は事前の予想を上回る、大勢の方のご参加をいただき、大会実行委員会として感謝致します。

統一論題で 4 件、研究部会で 10 件、自由論題で 60 件（うち学生発表 20 件）の合計 74 件の研究発表、チュートリアルセッション（ERP を利用した大学教育）がなされました。また、基調講演者、学生ボランティア（13 名）を除き、大会の実参加者は 157 名、懇親会参加者は 75 名でした。

最後に、今回の大会開催にご尽力いただいた、多くの会員の皆様、理事・評議員の皆様、発表者・司会者の皆様、学会事務局に、そして施設利用、大会準備支援をいただいた東京経済大学に、この場をお借りして深く感謝申し上げます。当日は大会受付等の不手際、懇親会での飲食不足などの色々のご迷惑やご不満をお掛けいたしました。大会の成功に免じてご容赦をお願いしたいと存じます。

---

### 会長退任のご挨拶

---

日本経営システム学会 第 18 期会長 小田 哲久

#### 1. はじめに

時間の経つのは早いもので、会長をお引き受けしたのがつい昨日のこのようです。それまでに副会長を 5 期 10 年と、監事の 1 期 2 年を経験してはおりましたが、会長職にある間、様々な課題が次々と発生し、それまでの 12 年間とは全く別の 2 年間を経験しました。

意思決定に迷う事案が多かったですが、副会長、常任理事、理事、評議員諸氏の助力を得て、なんとか、任期を全うできました。また、会員の皆さまには、大会への参加、論文の投稿、査読、新入会員の勧誘その他、大変にお世話になりました。紙面にて感謝の意を表したいと存じます。

#### 2. 任期中の行事

大きな行事として、九州小倉の地で、第 55 回全国研究発表大会が国際会議と同時開催されました（実行委員長は和多田淳三先生）。このことは、学会の国際化を大きく推進する結果となったと思います。次の第 56 回大会は、横浜市立大学（実行委員長は永松陽明先生）で、オープンデータを統一論題とし、アンドロイドのペッパーも参加するなどの新しい試みがありました。第 57 回大会は、札幌大学を会場に、約 30 年ぶりの北海道開催となり、関東以北での JAMS 会員の活躍をアピールできたと思います。（実行委員長は堀江育也先生）。第 58 回大会は、20 年ぶりに東京経済大学で開催され、今話題の IoT を統一論題とする、時宜を得た大会となりました。

#### 3. 会員サービスの必要性和内容

営利組織のサービス業であれば、消費者の意識を知ることが非常に大切で、それを的確に把握し、潜在需要に対応するサービスを提供することに注力します。一方、非営利組織としての学会では、会員の意識を積極的に調査することはほとんど行われませんが、会長就任以来、必要性を痛感していましたので、名簿の調査と同時に、会員の研究発表会に対する考え方をお聞きすることができました。結果は、第 58 回大会で「日本経営システム学会の研究」として暫定報告しておりますが、一部をここに要約します。

(1)回答者 187 名、全会員の約 29%で、その 89%が正会員。以下は正会員データのみ表記します。

(2)正会員の年齢層は、20 代 1.2%、30 代 15%、40 代 30%、50 代 27.5%、60 代 23%で、各年齢層からほぼ均等に回答いただけたことがわかりました。70 歳以上の会員は 4%と少なく、高齢会員の退会は査読者不足をもたらします。いわゆるシニア会員制度の早急な導入が望まれる所以です。

(3)会員期間平均は 9.4 年(SD は 7.9 年)、偏りがあり中央値は 8 年です。

(4)これまでに参加したことのない方にとっての参加のネックは、「大会が遠方で開催される」、「旅費が捻出しにくい」、など、開催場所の問題が大きいとわかります。

(5)大会参加経験者 140 名の満足度は、平均が 76 点(SD=18 点)、中央値は 80 点。ある程度の満足はいた

だけているようです。

(6)司会をしても良いかどうかは、年齢が高い方の方が YES の比率が高く、60代の方は、約半数が YES、と回答。

(7)大会をよくする工夫は、複数回答形式で10%以上の項目は、講演論文集のWeb化(45%)、工場見学(32%)、他学会と共催(26%)、パネル討論(24%)、チュートリアル(21%)、近隣国で開催(20%)、自由討論会(18%)、講演論文集のCD化・抄訳のネット公開(15%)、英語セッション・研究相談会・発表原稿のネット公開(14%)、ポスター発表・抄訳を論文誌へ掲載(13%)、遠隔参加(10%)、となっています。自由記述欄にも、「経営者が参加したいと思える運営を」、「より門戸を広げ、全会員が参加したいと思える土壌があると良い」、「国際会議化」他、多数の有益なご意見をいただきました。

#### 4. 学問発展への学会の役割

学会の発展は、会員の増加だけでなく、学問水準の向上が伴わないといけないことは、論を待ちません。しかし、学問水準の向上とは、具体的には何を意味するのでしょうか？これにはいくつかの基準が考えられます。大会での発表件数の増加、学会誌に掲載される論文数の増加、これらは発展の指標ではあっても、水準の向上とは別です。近年の世界的傾向として、論文の引用数を使って学会誌の水準を評価しようとするインパクトファクター(IF)なる指標の利用が横行しており、それが短期での引用を計測すること、特定企業のデータベースを使うこと、英語圏に有利であるなど、多くの問題を抱えたまま一人歩きしています。当学会の論文誌が諸外国の有力な雑誌に対抗できるようになるのは、まだまだ先のことと言えるでしょうが、その道筋をつけることは重要な課題と言えます。具体的には、学会誌の電子ジャーナル化がその一歩でしょう。国際学会誌(英文誌)IJAMSは既に実現できていますが、いずれは、和文のJAMS誌も電子出版に移行することが望ましいと思います。

話題を学問水準に戻します。質の高い研究が行われ、また、質の高い論文が出版されれば、その雑誌の学問水準は高いと言えますが、質の高い研究とは何でしょうか。私見ですが、他者に強い影響を与え、新たな研究を誘発すること、そして、その影響が長く持続すること、と思います。獨創性が高すぎて、直には真価が理解されないこともありえます。IFは、わずか2年前、3年前に出版された論文の引用数を使うことから、短期の影響しか計測しないという問題点が指摘されています。数学の論文では、30年くらい経ってようやく真価がわかると言われることを考えますと、分野によって、その真価がわかるのにかかる時間は大きく違うことがわかります。このことから、学術雑誌の学問水準を計測するには、長く引用される論文が掲載されるかどうか、を勘案する必要があると感じています。日本語の論文はIFではほとんど考慮されませんが、国立情報学研究所のCiNiiのデータベースでは、JAMS誌を含め、国内誌に掲載された論文の引用状況を調べることができます。CiNiiの引用調査は完全とは言えませんが、学会誌の学術水準問題を考える上で参考になります。

それでは、会員が優れた研究をする上で、学会として支援できることがあるでしょうか。学会は、会員の研究成果を発表する場を提供することが第一ですが、それだけでは不十分です。学会の役割は、会員の相互交流を通じて、会員の研究意欲を高めるとともに、知識を深化させ、より良い研究への足がかりを作ること、共同研究のきっかけを提供することや、研究のプロセスを支援することにもあります。

各研究部会、あるいは地方支部で行われている様々な学術講演会に加え、最近では、大会の場、あるいは、単独開催の形でR言語やフリーのERPを用いた大学教育に関するチュートリアルが企画されてきました。これらは、そのような支援の取り組みに含まれるでしょう。このような取り組みが、会員のニーズに合致して、さらに学会への参画意識が高まって、学会が会員全体の満足を上向きさせるようになることを期待したいと思います。

#### 5. 国際化への取り組み

今回の国際大会JAMS ICBI2017では、ハワイ会場の都合がつかないために止むを得ず国内大会との同時開催をすることになりましたが、結果的に、非会員の方を含む、非常に沢山の方から発表申し込みをいただきました。ハワイなど、海外での開催の重要性が薄れた訳ではありませんが、国際会議の国内開催に大きな需要があるとわかりました。その需要は、博士後期課程の院生に国際会議での発表を義務付けるケースが多いのにもかかわらず、出張経費捻出が容易ではないという事情を反映していると思われます。今後、秋の大会は国内ないし近隣国開催の国際会議にするといった案も現実味を帯びてくると思います。IJAMS誌は、編集委員会の努力により、国際大会ICBIとは独立に一定の論文数を維持しており、安定的に発行がなされていますが、国際会議の開催数増加は投稿数増加に寄与することと思います。

#### 6. 将来に向けて

塩出新会長は、高い学識をお持ちで、学術水準を上向きさせることの重要性をよく認識しておられますので、大いに学会を発展させていただけると期待しております。会員調査では、大会が遠方で開催されるので参加しにくい、という回答があります。大会はたまにしか巡ってきませんので、地方での活動を恒常的

に活性化することが必要でしょう。そして、将来の発展には、若い方達の活躍が期待されます。具体的には、常任理事選挙に立候補していただき、学会運営に積極的に関わっていただきたいと思います。

現時点の会員数は約 650 名で、経済経営系学会としては、既に中規模になっていますが、「文理融合」の理念を実現しようとする姿勢は他に見られないユニークなもので、さらなる会員数の増加を可能とするものと思います。千人規模になるのもそう先のことではないという感触を持っております。上記「経営システム学会の研究」を通じて、その感が強まりました。国際会議では多数の非会員の方に投稿していただいています。この方達は、既に会員予備軍と言えます。学会発展のキーワードは、「オープン化」で、非会員も気楽に参加できる窓口を用意し、気に入れば会員になってもらえるようにすることが肝要だと思います。

学会のさらなる発展と、会員の皆様のご活躍を祈念して退任の挨拶の締めくくりとさせていただきます。

---

## 2017 年度第 1 回理事会のまとめ

---

- I. 開催日時：2017 年 5 月 27 日（土） 11:10～12:10
- II. 開催場所：東京経済大学 国分寺キャンパス 6 号館 3 階 F309 教室
- III. 出席者：塩出、椎原、松岡、石田、川中、近藤、今野、東海、永松、成川、村山、浅井、今井、大野、上原、木全、佐藤、佐々木、鄭、谷崎、田畑、中井、原田、深澤、水野、毛利、柳田、山下、山田、若尾（監事）松丸、小田（オブザーバー）野村（事務局）小島 敬称略
- IV. 審議事項
  1. 2016 年度第 5 回議事録の確認（毛利）：2016 年度第 5 回理事会議事録が報告され、原案の通り承認された。
  2. 会員の入退会について（毛利）：入退会の状況について説明がなされ、承認された。これにより、2017 年 5 月 27 日現在、正会員 514 名、学生会員 119 名となった。
  3. 第 38 回通常総会議案書について（毛利）：第 38 回 2017 年度通常総会議案書に基づき、各議案について説明がなされ、承認された。これをもって通常総会に諮られることになった。研究部会の見直しについては今後の課題とするが、少なくとも現存の研究部会についてはホームページ掲載にも関わるため広報委員会にも連絡・確認をとることになった。また、第 38 回通常総会と表彰式における役割分担として、司会：佐藤、議長：鄭、議事録署名人：林・寺本、書記：鈴木・谷藤、第一号議案および第三号議案：椎原、第二号議案および第四号議案：田畑、監査報告：石井（松丸）、第五号議案：椎原、表彰：川中（敬称略）が担当することが承認された。
  4. 第 58 回全国研究発表大会の準備状況について（若尾）：参加者、基調講演・特別講演等、大会準備状況についての説明がなされ、承認された。
  5. 第 59 回全国研究発表大会の準備状況について（野村・小田）：ICBI2017 との共催の関係で、開催日を土日に加え、月曜日（工場見学）を設定した 3 日間とする（ただし研究発表は土日であることを強調し、間違い防止をはかる）ことが承認された。これにより、開催日（2017 年 10 月 28 日～30 日）、開催場所（星城大学）、発表申込（2017 年 8 月 25 日）、原稿締切（2017 年 9 月 29 日）等、大会準備および日程の案が説明・確認され、承認された。
  6. 学会役員・各種委員会委員・評議員について（毛利）：学会役員、各種委員会委員、評議員の案が配付資料の通り説明され、原案の通り承認された。また、石井元会長が名誉会員に推薦され承認された。なお、被選出常任理事が 15 名に満たない場合、会則で定められている理事の定数 40 名を満たせなくなる問題が存在している。これについては今後、総務委員会と規定委員会にて検討を行うことが承認された。
  7. 年の表記の統一について（毛利）：理事会資料や総会資料において西暦と年号が混在し、見づらい状態となっている。これに関しては今年度から段階的に西暦に統一していくことが承認された。
  8. 外部委員の選任について（塩出）：外部委員に関しては、会長に一任することが承認された。
- V. 報告事項
  1. 評議員会について（塩出）：評議員会にて、論文の採択率等に関する情報の開示が要望された（特に総会議案書内において）。これについては今後、編集委員会にて検討することが承認された。
  2. 電子メールによる審議について（毛利）：電子メールによる審議については、前提として各理事の返信が必要となることが確認され、承認された。

## ヒューマン・リソース研究部会のお知らせ

開催日時：2017年9月30日(土) 16:00-19:00

発表予定者：山下洋史(明治大学)：「小豆島の観光資源における地理的希少性強調シナリオ」  
権善喜(明治大学), 山下洋史(明治大学)：「生産管理システムにおける業者選択の自動化に関する研究」

大和尚弥(日本大学), 水上祐治(日本大学)：「ネットワーク分析による分野別研究活動の見える化に関する一考察」-日本大学理工部・工学部・生産工学部の研究活動の棲み分け-

開催場所：日本大学 生産工学部 30号館 5F 小田部研究室

連絡先(幹事)：金子 勝一(山梨学院大学) Tel.055-224-1337 E-mail:shoichi@ygu.ac.jp

## 経営モデル研究部会のお知らせ

開催日時：2017年10月14日(土) 14:00-16:00

発表予定者：調整中

開催場所：東海大学 高輪キャンパス 1号館 3F 1308 教室

連絡先：田畑 智章(東海大学) Tel.03-3441-1171 E-Mail:tabata@tokai-u.jp

金子 勝一(山梨学院大学) Tel.055-224-1337 E-mail:shoichi@ygu.ac.jp

## 入会者リスト

(2017. 5. 26~2017. 9. 8)

### 1. 正会員入会者

氏名	所属	氏名	所属
青山 早苗	富士通(株)	前田 篤志	筑波大学
田中 邦明	オムロン(株)	政本 隆志	沖電気工業(株)

### 2. 学生会員入会者

氏名	所属	氏名	所属
管 偉臣	愛知工業大学 大学院	小島 大空	大阪大学 大学院
施 月	愛知工業大学 大学院	藤永 隆靖	大阪大学 大学院
朝格 卒力格	愛知工業大学 大学院	伊藤 愁	日本大学
李 松奇	愛知工業大学 大学院	酒井 直人	日本大学
野口 義文	立命館大学	斯波 利樹	日本大学
秋葉 僚太	日本大学	中川 雄貴	日本大学
細田 孝峻	東北大学 大学院	大島 宏基	日本大学
山尾 健介	明治大学	陳 志豪	日本大学
若松 諒太	神奈川大学 大学院	増田 龍誠	日本大学
並木 美聡	東海大学	渡辺 慎之介	日本大学
岡田 稔	東海大学	福田 純也	東海大学
岸下 景介	京都工芸繊維大学	三辻 善作	芝浦工業大学 大学院
霍 達	立命館大学	中川 優樹	明治大学

### 3. 学生会員から正会員へ変更

氏名	所属
鈴木 美代子	明治大学



## 日本経営システム学会

住所 〒169-0073 東京都新宿区百人町1-20-3 バラードハイム 703  
TEL03-3371-5324・FAX03-3371-5185  
E-Mail: keieisys@jams-web.jp